

Title	「ツタヤ図書館」の資料区分を検証する(その5): 高梁市立図書館の検索・予約システムを中心に
Author	川瀬, 綾子 / 北, 克一
Citation	情報学. 15 卷 1 号, p.29-43.
Issue Date	2018
ISSN	1349-4511
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	Publisher
Publisher	大阪市立大学創造都市研究科情報学専攻
Description	
DOI	10.24544/ocu.20180619-005

Placed on: Osaka City University

「ツタヤ図書館」の資料区分を検証する その5 —高梁市立図書館の検索・予約システムを中心に—

Verify the TSUTAYA Classification, Part5 : Based on Takahashi City Library OPAC

川瀬綾子[†] 北克一^{††}

KAWASE Ayako[†] KITA Katsuichi^{††}

要旨：TSUTAYAを運営するカルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社が公立図書館の運営を担い5年が経過しようとしている。そして、2017年2月4日に第4の「ツタヤ図書館」となる高梁市図書館が開館した。本稿では、先立つ武雄市図書館、海老名市立図書館及び多賀城市立図書館のOPACに山積していた諸問題が、高梁市立図書館では改善されたのかの検証、及び検索・予約システムにおけるジャンル(カテゴリー)区分の資料分類区分の差異を検証し、評価する。

キーワード：ツタヤ図書館、カルチュア・コンビニエンス・クラブ、CCC分類、ライフスタイル分類、高梁市立図書館、多賀城市立図書館、海老名市立図書館、武雄市図書館

Keywords：TSUTAYA Library, Culture Convenience Club Co.Ltd., CCC Classification, Lifestyle Classification, Takahashi City Library, Tagajyo City Library, Ebina City Library, Takeo City Library

1. はじめに

TSUTAYAを運営するカルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社(増田宗昭代表取締役社長兼CEO；非上場；以下、CCC)が公立図書館の運営を担い5年が経過しようとしている¹。

2013年4月の佐賀県武雄市の武雄市図書館²を皮切りに、2015年10月に神奈川県海老名市の海老名市立中央図書館³が「ツタヤ図書館」としてリニューアルオープンしている。

なお、武雄市図書館は指定管理運営の契約期間(5年間)が2017年度で終了するのを受けて、新たに新設の武雄市こども図書館⁴の運営も併せて、引き続き指定管理を5年間継続する旨を、2017年12月議会において決定している⁵。

また、宮城県多賀城市の多賀城市立書館(本館)⁶は駅前に移転し、第三の「ツタヤ図書館」として2016年3月21日に開館した⁷。

さらに、2017年2月4日にはJR備中高梁駅隣接の複合施設中に、高梁市図書館が新築・移転開

館した⁸。直近では、山口県周南市で周南市立徳山駅前図書館が2018年2月3日に新たな「ツタヤ図書館」として開館している⁹。

また、「ツタヤ図書館」の開館準備中、導入検討中のところには、和歌山県和歌山市などがある¹⁰。なお、武雄市図書館や海老名市立中央図書館、多賀城市立図書館等のいわゆる「ツタヤ図書館」は、CCC内部の「CCCデザインカンパニー」で運営している¹¹。

本稿では、先立つ武雄市図書館、海老名市立図書館及び多賀城市立図書館のOPACに山積していた諸問題が、高梁市立図書館では改善されたのかの検証、及び高梁市立図書館の検索・予約システムにおけるジャンル(カテゴリー)区分等について、「大ジャンル」—「中ジャンル」のレベルの内、高梁市図書館において変更されたジャンルを、直近開館の多賀城市立図書館等との比較を行い、評価する¹²。

2. 「ツタヤ図書館」ウェブサイト及びOPACシステムについて

2.1 高梁市立図書館のウェブサイト

[†] 京都外国語大学等

^{††} 大阪市立大学

まず、高梁市立図書館のウェブサイトのデザインは先行する多賀城市立図書館のウェブサイトを彷彿とさせる。なお、このウェブサイトのデザインは海老名市立図書館から引き継がれている。

ウェブサイトのトップページには、2つのリンクが張られている。

1つ目は、「岡山県内の本を探す」であり、岡山県立図書館が運営する「岡山県図書館横断検索システム」¹³につながる。2つ目は、「高梁市観光案内所」へのリンクである¹⁴。JR 備中高梁駅に隣接した図書館棟の2階部分に、高梁市観光案内所を併設している。写真では、高梁市観光案内所の隣に、「レンタサイクル」の看板が見える。

それぞれの「ツタヤ図書館」のトップページに書かれたカテゴリーを比較すると、高梁市立図書館では、資料検索を「資料をさがす」とし、多賀城市立図書館と同一である。武雄市図書館では、「検索・予約 資料の検索」であったのに対し、海老名市立図書館では「検索・予約」であった。図書館でよく利用されている「蔵書検索」よりも「資料をさがす」の方が一般利用者には分かりやすいのかもしれない。

次に、子ども用ウェブサイトの名称についてであるが、武雄市図書館では、「こどもページ」、海老名市立図書館では、「こどもとしょかん」としている。しかし、多賀城市立図書館では、「キッズライブラリー」としており、子どもにとっては分かりにくい可能性が高い。この点については、我々は先行研究で指摘をしていた。高梁市立図書館では、再び「こどもとしょかん」へと戻されており、評価したい。

2.2 高梁市立図書館の OPAC システム

高梁市立図書館の OPAC の利用者インターフェイスの設計は、多賀城市立図書館とほぼ同一である。OPAC のインターフェイスも海老名市立図書館から引き継がれている。

図 1 は高梁市立図書館の OPAC である。多賀城市立図書館の OPAC と異なる点は、次である。

(1) 対象資料[区分]の選択肢(チェックボックスによる選択)が、多賀城市立図書館では「図書、雑誌、AV、行政」であるのに対して、高梁市立図書館では「図書、雑誌、AV」であり、行政資料の指定が

ない。

(2) 検索モードは、両図書館ともに「かんたん検索」モードと「詳細検索」モードがある。「かんたん検索」モードでは、海老名市立図書館、多賀城市立図書館では検索対象の所蔵館の指定はできなかったが、高梁市立図書館では所蔵館の指定ができるように改善されている。

なお、「詳細検索」モードでは、両館ともに所蔵館の指定ができる。高梁市立図書館では「高梁市図書館」、「成羽図書館」、「有漢図書室」、「川上図書室」、「備中図書室」、「移動図書館」の6つの図書館・室等が選択指定できる。特徴的であるのは、選択対象の図書館に「移動図書館」が含まれている点である。

図 1 高梁市立図書館の OPAC 画面



実際の運営状況は不明であるが、通常、資料の状況(書架にあり、貸出中、予約件数など)を、常に OPAC に反映する必要がある。

スムーズな運営を行うには、「移動図書館」(一

般に大型バス等)における貸出、返却、予約等のステータス変化をリアルタイムで、貸出管理データベースへ反映する必要がある。

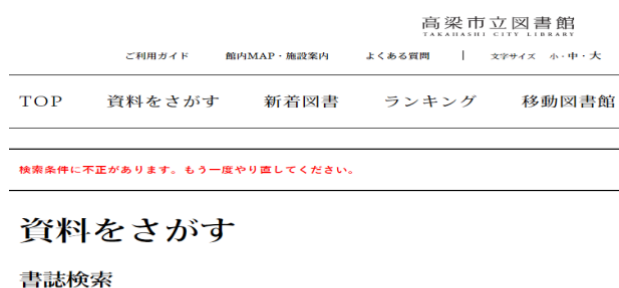
このためには「移動図書館」側でデータベースへのネットワーク・アクセス環境が必要である。「移動図書館」では VPN 環境を実現しているであろうか¹⁵。

しかし、検索の対象館を「移動図書館」のみに指定して検索すると、検索結果は「エラー」が返ってくる。「移動図書館」に関しては、所蔵館は本館、分館のままで物理的な集荷、運営のみを行っていると推測される。

高梁市立図書館では、CCC に委託した新しい高梁市図書館と直営の他の図書館・室(4館・室+移動図書館¹⁶)とが混在している。OPAC を含む図書館システムは、CCC システムを使用している。なお、高梁市立図書館網の内、直営の図書館・室においては、多賀城市立図書館と同様に、書誌詳細表示に NDC を表示し、請求記号として NDC の 3 桁を採用している¹⁷。

OPAC で NDC のみの検索を行おうとすると、図 2 のように「不正」とみなされる。これは絞り込み用の検索キーとして用意されているだけであり、NDC 単一の検索は不可能である。またジャンル単一の検索も不可能である。

図 2 「不正」とされた検索結果



「ツタヤ図書館」の検索に慣れていない利用者であれば、ジャンルや NDC での検索は絞り込み用であり、それだけでの検索が出来ないことは理解出来ない。よって図 3 で示した武雄市図書館の OPAC のように、「絞り込み条件」の記載をする、

もしくは検索の Q&A を用意しておくべきではないだろうか。また、「不正」という文言では、利用者を不快にさせかねない。例えば「検索条件に誤りがあります。もう一度やり直してください。」とするべきではないだろうか。

図 3 武雄市図書館 OPAC



2.3 「資料をさがす」(検索・予約) システム

高梁市立図書館、多賀城市立図書館の両図書館ともに、「書誌検索」では、同一画面に「かんたん検索」(簡易検索)モードと「詳細検索」モードが、同時に表示される。

「かんたん検索」モードは、ともにキーワード検索方式である。違いは、先に指摘したように、多賀城市立図書館のみ対象資料区分に「行政」資料がある。なお、海老名市立図書館では、我々の前回の調査(2016年2月)以降、検索の対象資料に「音訳」のチェックボックスが増え、図書・雑誌・AV・音訳の4種類になった。利用者への資料提供等サービスを受けての結果であろうか、評価したい。

ただし音訳図書については、海老名市立図書館の「ご利用ガイド→障がいのある方へのサービス→音訳図書資料一覧」をたどると、34点の所蔵一覧が PDF 形式で表示される。点数の乏しさ、及び PDF ファイルというコンテンツはどのような

利用者を想定しているのか疑問である¹⁸。

高梁市立図書館においても例えば行政資料、点訳や DAISY 等による絞り込みも可能になるとより検索がしやすくなるのではないだろうか。利用者の状況を踏まえた上で検討されたい。

2.4 一般的な検索項目：「詳細検索」モード

多賀城市立図書館の「詳細検索」モードでは、一次検索項目として、書名、著者名、出版者、キーワード、ISBN の入力項目がある。またプルダウンメニューを使用すると、書名、著者名、出版者、叢書名、一般件名、個人件名、学習件名、キーワード、内容細目のいずれかに入力項目が変更できる。そして、ISBN のプルダウンメニューには、ISSN や資料コードの入力項目がある。

検索式はデフォルト項目の「を含む」は、いずれも、プルダウンメニューから「で始まる」(前方一致検索)、「を含む」(キーワード検索)、「と一致する」(完全一致検索)を指定できる。デフォルト項目が「かつ」は、いずれも、プルダウンメニューから「かつ」(AND 検索)、「または」(OR 検索)、「でない」(NOT 検索)を指定できる。

二次検索項目として、NDC 分類、出版年の範囲指定、巻次の項目、独自分類である「ライフスタイル分類」¹⁹による「ジャンル」指定項目があるが、これらは単独検索項目でなく、絞り込み検索機能である。

一方、高梁市立図書館の詳細検索モードでは、一次検索項目として、書名、著者名、出版者、キーワード、ISBN の入力項目がある。またプルダウンメニューを使用すると、書名、著者名、出版者、キーワードのいずれかに入力項目が変更できる。そして、ISBN のプルダウンメニューでは、資料コードの入力項目を選択できる。

検索式はデフォルト項目の「を含む」は、いずれも、プルダウンメニューから「で始まる」(前方一致検索)、「を含む」(キーワード検索)、「と一致する」(完全一致検索)を指定できるのは、多賀城市立図書館と同様である。しかし、多賀城市立図書館にあったプルダウンメニューから「かつ」(AND 検索)、「または」(OR 検索)、「でない」(NOT 検索)を指定できるプルダウンメニューはなく、検索項目間は、「かつ」(AND 検索)のみである。

なお両図書館ともに、ひとつの検索項目欄に複数の語彙を入れると、それらの語彙間の AND 検索となる。

「ツタヤ図書館」は NDC を使用せず独自の分類(ライフスタイル分類)を採用している。ライフスタイル分類を OPAC において二次検索項目とせず、単独の検索項目とする方が、偶然の発見につながる可能性があり、「ライフスタイル分類」採用の趣旨にそぐうであろう。検索システム設計思想の一貫性が問われよう。

次に、検索結果が 1000 件を超えるようなキーワードが入力された場合、どのような表示がされるか「本」、「図書館」、「歴史」という言葉をキーワード入力欄に入れて試した。結果、高梁市立図書館では、全て「該当件数は 1000 件です。」と表示された。武雄市図書館では「本」では 36 件のみがヒットし、「図書館」では「該当件数は 1000 件です。」と表示された。また「歴史」では「総ヒット件数は 32643 件です。ヒット件数が多すぎます。条件を追加して再検索を行ってください。標準検索へ 詳細検索へ」となった。海老名市立図書館と多賀城市立図書館では、「いつもご利用ありがとうございます。検索結果は 1000 件以上でした。条件を変えて再検索してください。」となった。ヒット件数が多すぎる場合、どのようなアナウンスをするのが利用者にとってメリットがあるのか検討する必要がある。

2.5 「ツタヤ図書館」OPAC の改善点と残る問題点

我々は先行研究の中で、海老名市立図書館の OPAC で、「欠損書誌」が存在するため、検索結果一覧の該当件数と、ジャンル指定とに差が生じることに触れた。「欠損書誌」について記した箇所を少し長い引用する。

- 1) 書名欄に「キッチン」と入力し、ジャンル指定を行わずに検索を行う。「検索結果一覧 該当件数は 176 件です」のメッセージと共に、最初の 10 件の書誌及び資料状態が表示される。
- 2) 一方、左側の別メニュー画面では、検索結果件数が下位ジャンル区分単位で示されており、下位ジャンル区分を選択(クリック)するこ

とで、さらに個別の下位ジャンルで絞り込みが行える仕掛けである。この事例では、次の表示であった。「料理 73」、「旅行 1」「住まいと暮らし 23」、「美容・健康 3」、「趣味実用 3」、「児童書 20」、「文学・文芸書 10」、「自然科学 2」、「建築 12」、「医療・看護福祉 1」である。

3) このように、下位区分の表示件数の合計は、148 件であり、検索結果のメッセージ 176 件と一致しない。

4) 書誌の内容確認のために、先頭から数十件を表示して確認した。その結果、判明したことは、書誌レコードにおいてジャンルのデータが空白である書誌レコードが散見された。

5) これらの「欠陥書誌」の存在が、OPAC においてジャンル指定を行った場合に、検索結果から排除される理由であった。

ここから判明したことは、OPAC においてジャンル指定を行えば、結果として書誌レコードにジャンルデータが入力されていない書誌は、検索結果から排除されてしまうことである。すなわちジャンル検索を使用すると、海老名市立図書館のツタヤ図書館システムでは、利用者に OPAC の検索結果の部分集合を提示していることになる。日々利用者へ欺く情報提供ではないか。早急に書誌レコードの完全な整備と OPAC システムでの対応が求められる²⁰。

そこで、高梁市立図書館においては書誌レコードの整備に不備があるのかを調査した²¹。結果は以下の通りである。

- 1) 書名欄に「キッチン」と入力し、ジャンル指定を行わずに検索を行う。「検索結果一覧_該当件数は 90 件です」のメッセージと共に、最初の 10 件の書誌及び資料状態が表示される。
- 2) 一方、左側の別メニュー画面では、検索結果件数が下位ジャンル区分単位で示されており、下位ジャンル区分を選択(クリック)することで、さらに個別の下位ジャンルで絞り込みが行える仕掛けである。この事例では、次の表示であった。

「文学・文芸書 9」、「美容・健康 2」、「ビジネス 1」、「料理 26」、「住まいと暮らし 11」、

「児童書 25」、「趣味実用 2」である。

- 3) 下位区分の表示件数の合計は、77 件であり、検索結果のメッセージ 92 件と一致しない。

多賀城市立図書館の開館から、概ね 2 年間の経過しようとしている。新しく開館された高梁市立図書館においても「欠陥書誌」の存在が放置され、OPAC の検索結果に不整合や問題を放置していることを、厳しく指摘しておきたい。

ありていに述べれば、CCC が新規に指定管理の受託をした図書館の新たな整備をした資料に対する書誌レコードに対してのみ、独自の「ライフスタイル分類」コードを付与している。逆に、既存の資料等の書誌には、「ライフスタイル分類」コードは付与されていないので、こうした不具合が生じている。

ただし、分館の一部資料に「ライフスタイル分類」が例外的に付与されているが、事由は不明である。

2.6 構成書誌単位の検索と結果表示の齟齬

次に、両館ともに所蔵している『みんなの少年探偵団』（万城目学他著 ポプラ社 2014 年）の構成書誌単位タイトルである「少女探偵」（湊かなえ著）を事例として取り上げた²²。OPAC において、構成書誌単位タイトルからも検索できるのかを確認するために、「少女探偵」をキーワードに入力し、検索を行った。結果、高梁市立図書館、多賀城市立図書館共にヒットした。構成書誌単位のタイトル等も検索対象としている。

しかし、構成書誌単位のキーワードからも検索できる高梁市立図書館、多賀城市立図書館ともに、構成書誌単位タイトルを書誌詳細に表示していないため、なぜヒットしたのか利用者には分かりにくい可能性があり、早急な改善が求められる。

また、高梁市立図書館の OPAC では、一次検索項目のプルダウンメニューから「内容細目」の項目は削除されている。しかし、検索結果では、この「みんなの少年探偵団」はヒットしている。同じく、例えば「論理爆弾 / 有栖川有栖」もヒットするが、書誌詳細表示内容からは、ヒットした理由が不明である。

図 4 高梁市立図書館 「少女探偵」 検索結果書誌詳細表示画面



3. ライフスタイル分類

3.1 ライフスタイル分類：「ジャンル」という区分項目

CCC が運営受託をしているツタヤ図書館では、武雄市図書館始め 4 館の OPAC には、「ジャンル」という名称の下に、NDC とは異なる特異な項目区分が採用されている。

「ジャンル」は、「大ジャンル」、「中ジャンル」、「小ジャンル」に階層化されており、ジャンルによっては、小ジャンルの下位区分に「仕切」－「細目」という下位区分が存在している。

武雄市図書館では、第一ジャンルには 24 区分がある。以下に、第一ジャンルの区分を表示順に列挙する。

表 1 武雄市図書館の第一ジャンル 24 区分

PC	社会
コミック	人文
デザイン・アート	政治・国際
ビジネス	生活・趣味実用
医療・看護福祉	文学・文芸書
技術	法律
教育	旅行
経済	料理
建築	歴史・郷土

語学・参考書	児童書
産業	AV 資料
自然科学	その他

次に、海老名市立図書館以降の「ツタヤ図書館」には以下の 29 の第一次区分の「大ジャンル」がある。

表 2 海老名市立中央図書館、多賀城市立図書館、高梁市図書館の大ジャンル 29 区分 (3 者は同一の大ジャンル展開)

料理	政治・国際
旅行	社会
住まいと暮らし	法律
美容・健康	IT
ファッション	自然科学
スポーツ・アウトドア	産業
趣味実用	技術
人文	建築
児童書	医療・看護福祉
語学・参考書	教育
文学・文芸書	雑誌
歴史・郷土	コミック
アート	洋書
経済	AV 資料
ビジネス	

なお、多賀城市立図書館、高梁市立図書館の OPAC を確認すると、海老名市立中央図書館の「大ジャンル」と同一のジャンル名、同一順序であった。海老名市立中央図書館の「大ジャンル」が現時点での最善展開であるという判断であろう。

4. 高梁市図書館のジャンル区分

4.1 中ジャンル展開の変更

高梁市図書館では「大ジャンル」29 区分の内、いくつかの下位の中ジャンルにおいて、多賀城市立図書館から変更している。順に確認をする。

4.1.1 大ジャンル「児童書」

高梁市図書館では、大ジャンル「児童書」の下位区分である中ジャンルに多賀城市立図書館には

無かった「児童雑誌」が追加された。

一方、多賀城市立図書館に設けられている中ジャンル「YA」が高梁市図書館では無くなった。武雄市図書館及び海老名市立中央図書館の大ジャンル「児童書」の展開も確認したが、中ジャンル「YA」は無かった。

そこでそれぞれの館の館内図を確認したが、YA コーナーを配していたのは多賀城市立図書館のみであった。それが中ジャンル「YA」が存在する理由であろう。図書館の規模や利用者層にもよるが、YA コーナーを設け、中高生への積極的な働きかけを望みたい。

4.1.2 大ジャンル「文学・文芸書」

大ジャンル「文学・文芸書」では、新たに中ジャンルに「文庫」が新設された。しかし、本来「文庫」はジャンルではなく、資料形態であるが、所在場所の別置表示のために新たに取り入れられたのであろう。

4.1.3 大ジャンル「歴史・郷土」

高梁市図書館では、大ジャンル「歴史・郷土」の下記区分として中ジャンルに「地方史」、「高梁市」、「岡山県」が追加された。なお、検索結果から類推すると、中ジャンルの「地方史」には、備前、備中地方の歴史関係の図書が分類されているようである。

また、先に取り上げたように、高梁市図書館では「行政」という区分は、「歴史・郷土 / 岡山県 / 行政」という系になっている。しかし、行政資料は、歴史的なものだけではないので、疑問が残る。

一方、大ジャンル「歴史・郷土」の下位区分では、郷土資料への展開が手厚い。

歴史的な郷土資料は重視するが、現在の行政情報の提供には消極的と推察するのは穿ちすぎであろうか。

4.1.4 大ジャンル「ビジネス」

大ジャンル「ビジネス」では、中ジャンル「生活設計」が消去され、「資産運用」が追加された。さらに下位の小ジャンルを見る範囲では、概ね語彙の変更のようである。概念的には「生活設計 > 資産運用」であろうが、変更の意味は不明である。

なお、小ジャンル「年金・保険」が削除されている。

4.1.5 大ジャンル「政治・国際」

多賀城市立図書館では、大ジャンル「社会」の下位区分にあった中ジャンル「国防・軍事」が、高梁市図書館では大ジャンル「政治・国際」の中ジャンルに移動している。

正しく修正をしたということになる。なお、多賀城市立図書館の OPAC では、大ジャンル「社会」—中ジャンル「国防・軍事」のままである。

なお、海老名市立図書館の OPAC では、大ジャンル「社会」、「政治・国際」のどちらにも中ジャンルに「国防・軍事」が存在しない。

4.1.6 大ジャンル「AV 資料」

大ジャンル「AV 資料」では、中ジャンルに「音楽資料」、「映像資料」を新設し、中ジャンル「AV 資料」と並置している。概念的には、「AV 資料」の一部に「音楽資料」、「映像資料」がある。混乱であろうか。

また、中ジャンル「音楽資料」—小ジャンル「音楽資料」が展開されており、さらにその下位に「落語・演芸」があり、違和感がある。

なお、多賀城市立図書館の OPAC では、大ジャンル「AV 資料」—中ジャンル「AV 資料」、「映像資料」、「音楽資料」であり、海老名市立図書館の OPAC では、大ジャンル「AV 資料」—中ジャンル「音楽資料」である。設計思想にぐらつきが見える。

4.1.7 大ジャンル「雑誌」

大ジャンル「雑誌」には下位区分に中ジャンル「新聞」が増えた。しかし、概念的には、大ジャンル「逐次刊行物」の下に、中ジャンル「雑誌」、中ジャンル「新聞」が並列するのが好ましい。

新聞が検索出来るのかタイトル検索項目欄に「山陽新聞」や「朝日新聞」、「産経新聞」を入れて検索したが、ヒットしなかった。これは他の「ツタヤ図書館」でも同様であった。ただし、「ツタヤ図書館」以外の図書館の OPAC でも日刊紙が検索できない場合がある。

そのような場合には、所蔵する新聞の一覧をウ

ウェブページに掲載すべきである。それぞれの「ツタヤ図書館」のウェブページを確認した所、高梁市立図書館では、「ご利用ガイド」の中に「10.新聞・雑誌一覧」を設け、所蔵している新聞の一覧が表示されている。ただし、新聞の保管年数が不明である。

多賀城市立図書館では、「ご利用ガイド」の中に「8.新聞・雑誌一覧」があり、所蔵する新聞の一覧とともに「河北新報、朝日新聞は開館（昭和53年）からすべて、その他の新聞は過去2年分の新聞を所蔵しています。朝日新聞は縮刷版も所蔵しております。河北新報はデジタルデータベースのご用意もございますので、ご利用時は図書館カウンターまでお申し付けください。」と案内されている。

高梁市立図書館でもこれに倣った案内が必要ではないだろうか。また、海老名市立図書館、武雄市図書館には「新聞・雑誌一覧」は無かった。2館にも案内は必要ではあろう。細部にも注意を払っていただきたい。

4.2 小考察

以上、高梁市図書館と多賀城市立図書館のジャンル展開の差を中心に比較した。「大ジャンル」には全く差は見られなかった。

「中ジャンル」以降には、微々たる変化が見受けられたものの全体として顕著な改善点は見受けられなかった。

なお、大きな問題点を2点再確認しておきたい。第一は、大ジャンル以下に割り当てられている「ライフスタイル分類」の主題展開と個々の書誌レコードに入力されている「ジャンル」データとの不整合である。OPACでの検索結果に問題のある振る舞いへとつながる事項である。早急な対応が必要であろう。

第二は、武雄市図書館システム以降、CCCによる4館目の展開であるが、新しい図書館システムにおいて改善された点が先行する図書館のシステムに反映されていない点がある。書誌レコードの項目の修正等を伴う困難さがあるのであろう。

図書館業務の指定管理者として同一のCCCと契約を結び、運営委託を実施する「ツタヤ図書館」でありながら、それぞれが微妙に異なるシステム

が運営されている。

5. 解決されなかった問題点

我々は以前に武雄市図書館、海老名市立図書館の検索・予約システムについて検証を行う中で、いくつかの大きな問題点を指摘しておいた²³。

本章ではこの問題点が、今回新しく開館された高梁市図書館でどのように措置がされたのかを検証していく。

5.1 所在表示と配架場所

表3は高梁市立図書館のOPACでの検索結果の書誌詳細表示である。検索対象として、高梁市図書館を指定した。

表3 高梁市立図書館の書誌詳細表示

もう一度、ごちそうさまが、聞きたくて-ちかごろ人気の、うちのごはん 140 選-		
著者：栗原はるみ / 著		
出版者：文化出版局		
出版年：1994.10		
ジャンル：料理/食卓のレシピ/日々の料理の達人/日々の料理の達人/栗原はるみ		
NDC 分類：596		
(以下、略)		
所蔵	所蔵件数 2 件(予約件数：0 件)	
所蔵館	所蔵場所	請求記号 (以下、略)
	(棚番)	
有漢図書館	一般書	/596//
高梁市図書館	料理	料理 036//
	(721025)	

この検索結果を元に、解決されなかった問題点を検証していく。

5.1.1 所蔵情報の表示バグ

第一に高梁市立図書館では、今回の検討対象の高梁市図書館以外に、成羽図書館、有漢図書館、川上図書館、備中図書館及び移動図書館があり、OPACでの書誌検索において、検索対象を選択できる。

今回は、検索対象として、高梁市図書館を指定したが、上記の所蔵情報には「有漢図書館」及び「高梁市図書館」の所蔵情報が表示されている。これは明らかにバグである。

5.1.2 高梁市図書館の請求記号

高梁市図書館の所蔵場所は、「料理」で、棚番が「721025」である。また、請求記号は「料理036/ク」となっている。

なお、一般に開架出納方式では請求記号といったが、開架書架方式では所在記号の語彙が使用されており、請求記号の使用は誤使用である。

また、所在記号は、別置記号、書架分類記号、著者記号、巻冊記号などから構成され、資料に表示するとともに、書架上の相対位置を決める体系である。

一方、高梁市図書館システムでは、請求記号として、「料理036/ク」が示されている。この内、「料理」の語彙は、すでに所在場所として「料理」が表示されているので、意味がない。

残る「036/ク」の意味を解明する。鍵は書誌の「ジャンル」欄の「料理/食卓のレシピ/日々のごはんの達人/日々のごはんの達人/栗原はるみ」にある。

下記に意味が判明するように前後の情報を付加して表示する。

「料理/食卓のレシピ/日々のごはんの達人/日々のごはんの達人」の系と記号法

ー青山有紀	030ア
ー有元葉子	031ア
ー飯島奈美	032イ
ーウー・ウエン	033ウ
ー枝元なほみ	034エ
ー奥蘭壽子	035オ
ー栗原はるみ	036ク
ーケンタロウ	037ケ
(以下、略)	

所蔵情報で示されている「料理036/ク」の意味は、無意味な文字列「料理」+栗原はるみの固定番号「036」+栗原の「ク」である。

この記号体系には、複数の問題点がある。順次に指摘しておく。

- (1) 「日々のご飯の達人」の五十音順の氏名一覧に対して、シーケンスに「030」以降の番号を与えている。しかし、新たに例えば「川上美恵子」が追加されたら、「奥園寿子035オ」と「栗原はるみ036ク」の間であるが、与えるべき番号がない。
- (2) また、「栗原はるみ」に固有番号「036」を与えているのであるから、著者記号もどきの「ク」は冗長なだけで無意味である。
- (3) なお、検討したジャンルの階層的な文字列は、ある意味、件名標目モドキであることを付け加えておきたい。

またこの表示では、所蔵場所の表示「料理」の配置場所を知らなければ、資料へのアプローチが困難である。利用者は、「料理」ブロックの中で、「食卓のレシピ」コーナー → 「日々のご飯の達人」サブコーナー → 「栗原はるみ」とたどることになる。

返却図書の本架戻しを行う図書館スタッフは、高梁市図書館の大ジャンル29区分のフロア配置を熟知する必要がある。

一般的な別置記号、分類記号、著者記号等を組み合わせた所在記号体系の採用と比較して、独自分類を採用し、所在記号もどきを使用した「ツタヤ図書館」の大きな問題点であり、利用者サービス及び運営の課題、桎梏ともなる課題である。

5.2 所蔵場所「3F高書庫」

表4は高梁市立図書館のOPACでの検索結果の書誌詳細表示である。順次に検討を進める。

表4 所蔵場所「3F高書庫 世界大百科事典1」

<p>世界大百科事典 1 出版者：東京：平凡社 出版年：1978年 ジャンル：語学・参考書/百科事典/日本語百科事典/日本語百科事典 NDC分類：031 (以下、略)</p> <p>所蔵 所蔵件数1件(予約件数：0件) 所蔵館 所蔵場所(棚番) 請求記号(以下、略) 高梁市図書館 3F高書庫 738003</p>

所蔵情報に着目されたい。所蔵場所として、「3F 高書庫」が表示されている。所蔵場所は、配架場所がキャットウオークに囲まれた高層書架と推測される²⁴。

多賀城市立図書館ではこれを、「飾 宮城の文学」、「飾 人文」などと表示していた。

また、データ「(棚番)」は、個々の棚に付した番号だと類推されるが、公開情報の範囲では数列の解読はできない。

6. さいごに

「ツタヤ図書館」の立ち上げ、運営の中心として業務を遂行してきた CCC のカンパニー長の高橋はインタビューで「公共事業は三つ手掛けて実績と認められる。多賀城はわれわれの集大成と位置付け、緊張感を持って臨んでいる。これまでは不適切との指摘があれば、その都度改善すればいいという逃げの気持ちがあった」と述べている²⁵。また武雄市の受託の際の選書を振り返った際には、「行政手続としては問題ないと、当時から武雄市に言われていますが、武雄市図書館の時、僕たちはド素人でした。一館もやってない状態で、時間がなく、かつ予算もないという特殊な状況の中、2年半運営した経験を積んだ自分たちからすれば、もっと良いことができたのではないかと反省しています」²⁶という発言をしている。

ただし、検討を進めてきた範囲では、「もっと良いこと」は新委託図書館について改善点が反映されるのみで、既に委託契約中の図書館への改善点の反映は確認できなかった。

また、ハフィントンポストに掲載された Chika IGaya の報告には「海老名市では、著者名の頭文字を記した「著者記号」が1文字だけだったため、多数の著者が同じ分類となってしまう、本を探しづらかった。そこで、多賀城市では著者名前の頭文字を2文字に増やしている」とある²⁷。

しかし、先に栗原はるみの書誌事例で確認をしたように、「栗原はるみ 036 ㄍ」と著者記号モドキは、カタカナ1文字に戻っている。

武雄市図書館、海老名市立中央図書館、多賀城市立図書館は、今後の受託館をよりよくするための実験のために導入された図書館では無い。

CCC が培ってきたノウハウがあるのであれば、それぞれに還元されていくことを強く望む次第である。

高梁市図書館の開館から数か月、先行するツタヤ図書館と同様に、賛否両論が渦巻いている。評価は5年間の委託期間の全体を通じての総合評価を待たねばなるまい²⁸。

なお、武雄市図書館は委託期間満了後に、さらに5年間の延長契約を進めている。

付記：「ツタヤ図書館」での個人情報保護

海老名市立図書館、及び多賀城市立図書館のウェブサイトアクセスすると、「Culture Convenience Club Co., LTD [JP] | <https://ebina.city-library.jp>」、や、「Culture Convenience Club Co., LTD [JP] | <https://tagajo.city-library.jp>」、「Culture Convenience Club Co., LTD [JP] | <http://takahashi.city-library.jp/library/ja>」と表示される。

CCC が指定管理者として受託した個々の図書館の一般名称は、例えば高梁市立図書館の場合は、<http://takahashi.city-library.jp/library/ja> であろう。「暗号化通信用の証明書に関する記載」を確認すると以下の表示があった。

証明のパス

Cybertrust Grobal Root LCybertrust Japan EV CA G2 Ltakahashi.city-library.jp

発行先 takahashi.city-library.jp

発行者 Cybertrust Japan EV CA G2

有効期間 2016/09/05 から 2018/09/30

高梁市立図書館に対して証明書が発行されていることが分かる。とすれば、ウェブサイトに表示される「Culture Convenience Club Co., LTD [JP] |」の文字列は、誤解されやすい表現である。

早急な修正を望んでおきたい。

なお、CCC のプライバシーマーク(p マーク)返納に関して、Chika Igaya による「[TSUTAYA 図書館] p マーク返納について CCC との一问一答」²⁹の記事がある。

引用文献

1 代表的な批判に次がある。

田井郁久雄「海老名市立中央図書館の問題は何か～図書館と書店、CCC と TRC」『談論風発』Vol.10 No.2, 2015.10, p.1-5.

田井郁久雄「虚像の民営化『ツタヤ図書館』」『世界』No.876, 2015.12, p.196-205.

また、『みんなの図書館』466号2016年2月では「ツタヤ図書館」の特集をしている。合わせて参照されたい。

2 武雄市図書館

<https://www.epochal.city.takeo.lg.jp/winj/opac/to.p.do> [確認：2018年3月30日]

3 海老名市立図書館

<https://ebina.city-library.jp/library/ja> [確認：2018年3月30日]

海老名市立図書館は複数館で構成されている。OPAC と図書館全体での共通システムでは、海老名市立図書館と表記し、委託対象の中央図書館については海老名市立中央図書館と表記した。

4 【武雄市子ども図書館 概要】

- ・ 開館日：平成29年10月1日
- ・ 営業時間：午前9時から午後9時
- ・ 休館日：なし
- ・ 敷地面積：1,439 m²
- ・ 建築面積：614.27 m²
- ・ 建築延面積：691.34 m²
- ・ 事業費：4億87百万円
- ・ 蔵書冊数：図書；20,000冊 CD・DVD；1,000枚

<http://www.city.takeo.lg.jp/information/uploads/20171001kodomomo.pdf>

[確認：2018年3月30日]

5 『佐賀新聞 Live』2017年10月12日

武雄市図書館の指定管理者 「ツタヤ」次期契約も候補

武雄市は10日、本年度で指定管理運営の契約期間が終了する武雄市図書館・歴史資料館の来年度以降の運営について、現在の運営者のカルチュア・コンビニエンス・クラブ(CCC)を委託候補者に選定したと発表した。理由に「利用満足度が高く、質の高いサービスを提供している」などを挙げた。12月定例会市議会に関連議案を提案する。

隣接地に10月に開館した「子ども図書館」の運営を含めて5年契約を結ぶ方針。指定管理料は上限を年間1億8千万円に設定し、子ども図書館の運営状況をみて正式に決める。現在の委託料は

1年換算で図書館が1億1314万円、子ども図書館が6034万円。CCCは書店やレンタル店のTSUTAYA(ツタヤ)を運営している。

図書館運営については、副市長や部課長ら12人の選定委員会で協議してきた。

(1)教育関係者らで構成する委員会が「指定管理者として適切」と評価

(2)利用者アンケートで図書館満足度が85%、サービス満足度が87%に上った

(3)年中無休で午前9時から12時間開館し、講座やイベントも充実させて質の高いサービスを提供している

ことなどから候補者に選定した。教育委員会でも審議し、選定を了承した。

候補選定に合わせ、子どもや子育てに関する講座、イベントの充実などを求めた新しい「管理業務仕様書」も作った。

<http://www.saga-s.co.jp/articles/-/135273>

[確認：2018年3月30日]

武雄市議会 平成29年12月定例会本会議 平成29年12月21日

議事録 p.333-339.

<http://www.city.takeo.lg.jp/shisei/shigikai/H29gikai/201712/files/20171221.pdf>

[確認：2018年3月30日]

第67号議案「武雄市図書館・歴史資料館の指定管理者の指定について」

(福祉文教常任委員長報告・質疑・採決)

6 多賀城市立図書館

<https://tagajo.city-library.jp/library/ja>

[確認：2018年3月30日]

7 なお、多賀城市は図書館の移転及び運営形態の変更について以下のようにコメントしている。

現在の図書館は、施設が手狭で必要なサービスが提供できないこと、老朽化により利用者にとって優しい空間とはなっていないこと、図書の貸出サービスを中心として整備された施設であり限定的なサービスの提供に偏っていること、さらには立地条件と交通アクセスの課題を抱えていることなどから市民利用率が1割ほどに止まっており、利用者の固定化が払拭できない状況となっています。図書館は、より多くの市民に利用されてこそ、その真価を発揮します。

移転後の図書館は、管理・運営形態とも常に利用者の視点に立ち、来館しやすい環境の整備や居心地の良い場と空間を創出するなど、新たな

な取組やサービスによって全ての市民に親しまれ利用される施設になることを目指し「本と人との出会い」をテーマに「本と人」をつなぐことで「人と人」をつなぎ、豊かな文化活動の交流拠点として地域社会と市民生活の発展に貢献します。

また、CCCの高橋聡図書館カンパニー長は現地での記者会見で、新図書館の経済効果は年間約50億円と発表している。産出根拠は示されていない。河北新報 3月21日(月)10時11分配信

http://www.kahoku.co.jp/tohokunews/201603/20160321_12023.html

[確認：2018年3月30日]

⁸ 高梁市立図書館

<https://takahashi.city-library.jp/library/>

[確認：2018年3月30日]

高梁市立図書館は、高梁市図書館、成羽図書館、有漢図書室、川上図書室、備中図書室及び移動図書館から構成されている。

なお、本稿では高梁市のすべての公立図書館を総称する時は、「高梁市立図書館」と記述し、JR備中高梁駅前の図書館は、「高梁市図書館」と記述する。

立地場所は、JR備中高梁駅に隣接している。鉄道でのアクセスは、特急列車で岡山駅から約35分、倉敷駅から約20分、普通列車で岡山駅から約60分、倉敷駅から約35分である。ただし、JR伯備線は、概ね1時間当たり、特急列車1本、普通列車2本程度である。

2階は、備中高梁駅とつながっており、蔦屋書店、スターバックスコーヒー及び観光案内所がある。3階が(一般)図書室と学習室、4階は児童書、読み聞かせスペース、多目的室が配置されている。

開館時間は、9:00~21:00である。

⁹ 周南市立徳山駅前図書館

<https://shunan.ekimae-library.jp/ja>

[確認：2018年3月30日]

¹⁰ 「TSUTAYA 図書館は何を目指すのか？ CCCの責任者が語る現状と『未来』」2015年11月12日『HUFF POST Society』

<http://www.huffingtonpost.jp>

[確認：2018年3月30日]

同記事は、2015年11月11日、横浜市で開催された第17回図書館総合展のフォーラムでのCCCの図書館カンパニー長の高橋聡氏の発言である。

なお、フォーラムの記録動画は、次を参照。

<http://www.libraryfair.jp/forum/2015/1852>

[確認：2018年3月30日]

¹¹ 『週刊東洋経済』2015.10.31号, p.42-43.

なお、TSUTAYA書店グループは、リアル書店では国内最大手であり、2015年3月決算では、約1,200億円の売り上げがある(『週刊東洋経済』2015.10.31号, p.39)。

¹² 我々は武雄市図書館、海老名市立図書館及び多賀城市立図書館の資料区分について研究を行った。以下を参考にされたい。

川瀬綾子、北克一「『ツタヤ図書館』の資料区分を検証する その1—武雄市図書館、海老名市立図書館の検索・予約システムにおけるジャンル(カテゴリー)指定を手掛かりに—」『資料組織化研究-e』No.68, 2016.3, p.1-28.

<http://techser.info/> [確認：2018年3月30日]

川瀬綾子、北克一「『ツタヤ図書館』の資料区分を検証する その2—武雄市図書館、海老名市立図書館の「こどもとしゃかん」検索システムにおけるジャンル(カテゴリー)設定を手掛かりに—」『資料組織化研究-e』No.68, 2016.3, p.29-50.

<http://techser.info/> [確認：2018年3月30日]

川瀬綾子、森美由紀、北克一「『ツタヤ図書館』の資料区分を検証する その3—多賀城市立図書館の検索・予約システムを中心に—」

『情報学』13(1), p.64-81.

<http://kiyo.info.gsc.osaka-cu.ac.jp/JI/issue/view/161> [確認：2018年3月30日]

川瀬綾子、森美由紀、北克一「『ツタヤ図書館』の資料区分を検証する その4—図書に対するアマゾン分類とCCC分類の比較検討」

『情報学』13(1), p.82-92.

<http://kiyo.info.gsc.osaka-cu.ac.jp/JI/issue/view/161> [確認：2018年3月30日]

川瀬綾子、森美由紀、北克一「『ツタヤ図書館』の「こどもとしゃかん」機能の検証」

『情報学』13(1), p.93-105.

<http://kiyo.info.gsc.osaka-cu.ac.jp/JI/issue/view/161> [確認：2018年3月30日]

¹³ 「岡山県図書館横断検索システム」

<http://oudan.libnet.pref.okayama.jp/gf/cgi/start-jp> [確認：2018年3月30日]

¹⁴ 観光案内所はCCCが運営元になっている。

<http://www.city.takahashi.okayama.jp/soshiki/9/kannkouannnaisyoiten.html>

[確認：2018年3月30日]

15 なお、移動図書館のみを検索対象として、キーワードに「料理」、「旅行」、「住まい」「暮らし」、「美容」、「健康」、「ファッション」、「スポーツ」、「アウトドア」、「趣味」を入力して、検索を試みたが、いずれもノーヒットであった。推測であるが、移動図書館の積載資料のステータスは、直営の他の図書館・室のままで運営をしているようである。

16 高梁市立図書館の移動図書館については、ホームページで次のような記述がある。

移動図書館

本館と遠隔地を繋ぐサービスとして、移動図書館が市内を巡回しています。

本の貸出—返却だけでなく、予約・レファレンス対応なども、本館と同じようにお楽しみいただけます。

また、注文、日用品・パンの販売も行っています。(下線は筆者)

ご利用案内

移動図書館には、約 2000 冊の本を積載しております。1 ヶ月に 1 回、資料の入れ替えを行っており、常に新しい本と出会えます。

17 例えば、日本の時代小説の場合は、CCC 運営の高梁市図書館の請求記号は「文学・文芸 003 ㄗ」であり、直営の成羽図書館では「913.6//」である。

18 音訳図書資料一覧の作成日は、2017 年 12 月 30 日である。

次の利用制限が記述されている。

「ご利用いただける方はハンディキャップサービス登録者の方のみお一人様 2 点まで」

19 この独自分類(ライフスタイル分類)について、CCC(カルチャ・コンビニエンス・クラブ)社長の増田宗昭氏は、インタビューにおいて次のように述べている。

——CCC の独自分類が戻しにくくしているのでは。利用者も探しにくい。

増田；探しにくいっていう人もいるし、発見があるっていう人もいる。

——もし、自治体が「いや、これは探しにくさのデメリットのほうが大きい」となったら……。

増田；それは CCC を採用しない。

——となると分類方法を変える？

増田；いや、変えない。市が俺たちを採用しないってことよ。俺らの持ち味は独自分類だから。

——CCC が指定管理者である以上は、独自分類を続けるということですか？

増田；じゃなければやる意味がない。

「独占直撃 図書館のこと、本のことすべてに
応えよう」『週刊東洋経済』2015 年 10 月 31 日号、
p.53.

しかし、我々が一連の論文群「『ツタヤ図書館』
の資料区分を検証する」で確認をしてきた範囲で
は、「増田；じゃなければやる意味がない」ほどの
分類体系とは考えられない。

20 川瀬綾子、森美由紀、北克一『『ツタヤ図書館』
の資料区分を検証する その 3—多賀城市立図書館
の検索・予約システムを中心に』

『情報学』13(1)、p.64-81.

<http://kiyo.info.gsc.osaka-cu.ac.jp/JI/issue/view/161> [確認：2018 年 3 月 30 日]

21 調査日は 2018 年 3 月 1 日である。

22 多賀城市立図書館 OPAC、高梁市立図書館
OPAC 共に、検索結果の書誌表示に構成書誌単位
(著作内容注記)のタイトル、著者は表示されない。
そこで、「国立国会図書館サーチ」を使用して、構
成書誌単位のタイトルをあらかじめ入手した。

「国立国会図書館サーチ」(NDL サーチ)

<http://iss.ndl.go.jp/books/R100000002-I025868580-00>

[確認：2018 年 3 月 30 日]

タイトル：みんなの少年探偵団

著者：万城目学、湊かなえ、小路幸也、向井湘吾、
藤谷治 著

(中略)

出版社 ポプラ社

出版年 2014

(中略)

部分タイトル：永遠 / 万城目学 著

部分タイトル：少女探偵団 / 湊かなえ 著

部分タイトル：東京の探偵たち / 小路幸也 著

部分タイトル：指数犬 / 向井湘吾 著

部分タイトル：解散二十面相 / 藤谷治 著

(以下、略)

23 川瀬綾子、北 克一『『ツタヤ図書館』の資料
区分を検証する その 1 —武雄市図書館、海老名
市立図書館の検索・予約システムにおけるジャン
ル(カテゴリー)指定を手掛かりに—』『資料組織化
研究-e』No.68, 2016.3, p.1-28.

<http://techer.info> [確認：2018 年 3 月 30 日]

24 次の論文では、この高層書架列について、「例
えば高書架を導入した上で、手に取りにくい位置
には文学全集等、利用の少ない図書を配架し、「図
書館らしい」景観を創ることは、国内外を問わず
他の図書館でも行われている。」とし、高層書架の

導入は、「国内外を問わず他の図書館でも行われている」と一般的な配架法、サイン計画であるかのような評価をしている。

佐藤 翔 『TSUTAYA 図書館』から考える教育機関としての図書館『Musa 博物館学芸員課程年報』追手門学院大学, 第 30 号, p.29, 2016.3.

Researchmap.jp/?action=cv_download_main&upload_id=106147

[確認: 2018 年 3 月 30 日]

しかし、「図書館らしい景観」を演出するのにダミー本を大量に飾る「芝居の書き割り」とは峻別すべきであろう。研究者としての見識が問われる。

25 河北新報「<ツタヤ図書館>高め合う学びの場に CCC 図書館カンパニー長・高橋聡氏に聞く」
http://www.kahoku.co.jp/tohokunews/201603/20160320_15010.html [確認: 2018 年 3 月 30 日]

26 「武雄市図書館の時はド素人でした」 海老名市でオープンした 2 館目の TSUTAYA 図書館は何が違う? [by] Chika Igaya

投稿日: 2015 年 09 月 30 日 22 時 34 分 JST 更新: 2015 年 10 月 06 日 19 時 05 分 JST

http://www.huffingtonpost.jp/2015/09/30/ebinas-hi-takeoshi_n_8220202.html

[確認: 2018 年 3 月 30 日]

27 Chika Igaya 「3 館目の「TSUTAYA 図書館」が多賀城市にオープン 武雄市や海老名市との違いは?」2016 年 3 月 20 日『HUFF POST Society』

http://www.huffingtonpost.jp/2016/03/20/tagajoshi_n_9509504.html [確認: 2018 年 3 月 30 日]

28 例えば、賛成意見。

話題沸騰! おしゃれ過ぎる高梁市図書館に行ってみた。Posted 2017.02.03

<https://tjokayama.jp/trip/23284/>

[確認: 2018 年 3 月 30 日]

1 階にはバス乗り場や飲食店をはじめとする商業施設も入った複合施設です。

ちなみに、1 階にはバスセンターのほか、カレーやドリンクが味わえるカフェ『高梁ほっとカフェ』、昼はパスタ、夜はバルとして食事が楽しめるイタリアン『GATTO LIBERO (ガット・リベロ)』もあります。

4 階のキッズライブラリーは、小学生対象のコーナーと幼児対象のコーナーに分かれており、年齢に合った本の探し方ができます。幼児コーナーの壁一面の動物のモニュメントは、紙のパズルやグラフィック折り紙創作で有名な「cochae」デザインによるもの。国内・海外の絵本や、司書がセ

レクトした人気ラインナップの大型絵本がそろっています。ベビーにはうれしい、靴を脱いで過ごせる絵本の読み聞かせスペースのほか、子ども用トイレや授乳室などの設備も完備。子連れママにとっては使いやすさ抜群!

さらに、「天空の公園」をイメージした、空を感じるキッズテラスには「ボーネルンド」の遊具が! 遠くには備中松山城を望むことができるんですよ。キッズテラスでは飲食が可能なので、お弁当を持ち込んで、家族やママ友と楽しむのもいいかも。

例えば、反対意見。

オワコン

終わりなきコンテンツ 尾鷲より愛をこめて

高梁市に出来たツタヤ図書館の問題—「地域を活性化できない」

<http://www.kyohei-suzuki.com/entry/tsutayalibrary>

[確認: 2018 年 3 月 30 日]

・投資額がでかすぎ! 街が貧乏になる

・毎年の赤字が街をより貧乏に

・潤うのは高梁市ではなく、大阪市だ

・公共施設は税金で作られていることを忘れちゃいけない

例えば、館長の紹介記事。

元・気・人

2 月 4 日に開館した高梁市図書館の館長 藤井勇さん /岡山

毎日新聞 2017 年 3 月 9 日 地方版

<https://mainichi.jp/articles/20170309/ddl/k33/040/546000c>

[確認: 2018 年 3 月 30 日]

民間運営「粘り強く説明」 藤井勇 (ふじい・いさむ) さん(67)

2 月 4 日に開館した高梁市図書館 (同市旭町) で館長を務める。図書館は今月 3 日現在の累計入館者数が 6 万 7855 人で、目標の年間 20 万人達成に向けて順調なスタートを切った。

同市出身で県教委に採用され、主に教育行政畑を歩んだが、小学校の校長も 10 年間務めた。定年後、支援が必要な児童・生徒の指導員になり、「子どもの成長に関わるのが天職だと思っていた」。

市教育委員だった昨年、図書館を運営する「カルチュア・コンビニエンス・クラブ(CCC)」に誘われた。「図書館の場所や民間への委託など、賛否両方の意見に直面していた。悩んだが、誰かがやらなくてはいけないなら微力ながらも」と任期

途中で委員を辞め、同市に移住してきた CCC の若いスタッフらと約半年、開館準備に汗をかいた。

CCC の社員という形で館長を務めるが、民間企業は初体験。「責任の所在がきっちりしており、会議の積み重ねで皆が同じベクトルを向いている。利用者が主役と考えていこうとしている」と評価する。一方で、県外の CCC 運営の図書館で過去に購入する図書の種類が問題視された反省から、図書の購入を市教委が確認するなど、手法も見直された。【山本麻美子】（後略）

例えば、館長の「天下り」を批判する記事。

『Business Journal』2016.11.17.

http://biz-journal.jp/2016/11/post_17202.html

[確認：2018年3月30日]

ツタヤ図書館、強引に CCC へ委託先決めた市教委委員長が新館長就任か…再び天下り人事疑惑

岡山県高梁市は 11 月 1 日、レンタル大手 TSUTAYA を運営するカルチュア・コンビニエンス・クラブ (CCC) を指定管理者とし、管理・運営を任せられた図書館を、来年 2 月 4 日にオープンすると正式発表した。

駅前に完成した 4 階建ての複合ビルに、賑わい創出の目玉として CCC がプロデュースするカフェや書店を併設する滞在型の新図書館がオープンする計画で、佐賀県武雄市、神奈川県海老名市、宮城県多賀城市に続いて、全国で 4 例目となる“ツタヤ図書館”だけに、かねてより注目を集めていたのだが、驚いたのがその人事である。

新聞報道等で、新図書館の館長として名前が挙げられたのは、高梁市教育委員会の委員長だった藤井勇氏だ。教育委員としての任期は、2013 年 11 月 16 日～17 年 11 月 15 日までとなっていたが、任期を 1 年以上残して今年 9 月 30 日付で退任していた。

さらに取材してみると、10 年 3 月に同市内の小学校校長を定年退職した後は長年、地元教育界で活躍されていて、「10 月 1 日から CCC 社員として入社したと聞いています」(市議会関係者) とのこと。

ある図書館関係者は、これは信じられない人事だと指摘する。

「新図書館の指定管理者を決めたのは、市教委です。その部署の委員長が、指定管理者となった会

社に就職するなんて、そんなあからさまな天下りが許されるのでしょうか」

教育委員会組織は、委員会の下に事務局があり、その下に図書館がある。その図書館の運営を担う民間会社に、市教委では「教育長に次ぐナンバー 2」といわれる委員長が就任するわけで、まさに「天下り」といえる。教育委員は特別職なので、地方公務員法の規制は受けない。したがって違法行為ではないが、仕事を依頼する側の責任者が、依頼を受けた側の責任者に就任するという事は、道義的な問題が生じる恐れはある。(中略)

実は、これと似た出来事が 3 月 21 日に、全国 3 例目のツタヤ図書館として新装開館した宮城県多賀城市立図書館でも起きていた。

当サイト 2 月 6 日付記事『ツタヤ図書館、市側の元図書館協議会会長が CCC 天下り疑惑…新館長に就任』で報じたが、元小学校の校長で、市教委傘下の図書館協議会会長を務めていた人物が、指定管理者に選定された CCC に入社して、オープンと同時に館長に就任したことが明らかになった。

その後、市長が直接口ききしたのではないかと市議会でも追及され、大問題に発展したが、高梁市のツタヤ図書館でもまったく同じことを行っているのだ。

多賀城市のケースでは、事業者選定に直接の決定権はないが議論をリードしていく役割を担った図書館協議会会長(図書館長の諮問機関)が CCC に再就職した。しかし、今回の高梁市のケースは、直接決定に関与する教育委員会の委員長だ。

高梁市教委に取材したところ、本件に関して、藤井氏が 9 月末まで教育委員だった事実だけは認めたものの、「それ以上は個人情報なので一切答えられない」として取材を一方向的に打ち切った。

(後略)

(文＝日向咲嗣／ジャーナリスト)

²⁹ Chika Igaya による「[TSUTAYA 図書館] p マーク返納について CCC との一問一答」

『HUFFPOST』NEWS 2016 年 02 月 12 日
https://www.huffingtonpost.jp/2016/02/10/p-mark_n_9199624.html

[確認：2018年3月30日]

[2018年4月10日受理]